

入 学 者 の こ と ば

入学者のことば

歯学科1年 川 上 慎太郎

新潟大学歯学部歯学科に入学しました、川上慎太郎です。

このたび、入学者のことばを執筆する機会をいただき、大変光栄です。私は、特に優れた文才や思想、経歴を持っているわけではありませんが、自由に感じたままに言葉を紡ぎたいと思います。

今年度から、新型コロナウイルス感染症の影響によるオンライン授業が解除され、すべての必修科目が対面式となりました。このことについて、授業を直接聞ける機会が増え、学習がより深まると感じるとともに、もう言い訳ができなくなったと感じます。今まで自分の中でコロナ禍は免罪符のようなものであり、本当は失敗を恐れて挑戦しなかったのに、コロナ禍の影響だからしょうがない、新しいことに挑戦できないのは環境のせいだ、と言い訳を自分の中で言い聞かせることができていました。しかしコロナ禍ではなくなった今、挑戦に対する逃げはすべて自分の責任となります。それはコロナ禍でたるみきった私を元に戻すチャンスだと思っています。まずは授業にしっかり出て、課題を丁寧に効率的にこなして学業に集中したいです。

次に、特に興味深い授業科目についてお話ししたいと思います。それが「教養を学ぶ」という授業です。この授業は主にグループワークをしながら、歯科医師についてだけでなく、哲学的な教養についても考える授業になっています。例えば、純粋な子供から「死んだらどうなるの?」「勉強はなぜ必要なの?」「芸術の目的は何なの?」といった様々な質問が投げかけられ、どのように回答するべきかという課題に取り組む授業がありました。まずはこれらの疑問に対して、哲学者の回答を読んで予習し、それを踏まえて自分の回答を

作成します。その後授業内でグループになって各々の考えを話し合い、話し合いの結果を最後に発表します。正直教養というものはあいまいなものなので、授業を通して自分に教養が身についているのかはわかりません。しかし私は、グループワークで普段絶対話さないような話題について考えることで、友人の価値観を学ぶことができます。普段はあまり会話がなく、どのような考え方をしているのかわからない友人でも、この授業を通して知ることができます。6年間苦楽を共にする歯学部生にとって、困難な状況に直面した際に、仲間の考え方を参考にできるという点で、この授業は非常に貴重な時間だと感じています。

(しかしこの前大寝坊をしてしまい、遅刻してしまいました。すみませんでした。)

最後に、奇遇な出会い方をした友人や、境遇が非常に似ている友人、とてもおもしろい野球部の先輩たちをはじめ、私は周囲の方々に恵まれ、本当に幸せな環境にいます。未熟な面もありますが、6年間、精一杯努力いたしますので、よろしくお願いいたします。

入学者の言葉

口腔生命福祉学科1年 佐 藤 楓 華

入学してからあっという間に今日まで経過しました。最近はずっと暖かい日が続いていますね。私の地元山形県も良い場所ではありましたが、新潟県は昆虫が家や学校に出てこないのが、快適な一人暮らしを送れています。入学式から始まった大学生活は慣れないこともありましたが、多くの人が模索しながら少しずつ、自立した生活を送り始めていると思います。

大学に入学してから私が一番に感じていることは、両親や今まで支えてくれた人たちへの感謝です。私は一人暮らしをしているので、家事やお金

の使い方は自分で決定して行っています。慣れてしまえば大変なことは多くありませんが、小さな手間の絶え間ない積み重ねによって生活していることを切に思います。今までの自分の生活が、どれだけ両親や周りの人に頼って成り立っていたものであるのかを気づくことが出来ました。これからは、今までとこれからの感謝の気持ちを何かしらで返しながら生きていきたいと思っています。

話は変わりますが、歯学部に入學した皆さんは入試で面接を経験していますね。全員が何かしらのきっかけや理由を持って、入學したことだと思います。私は前期試験をどこに出願するか、とても悩みました。スムーズに決められなかったからこそ、早い時期から口腔生命福祉学科を志望する人に比べて気持ちが弱いのだと思い不安になっていました。しかし、入試の面接対策のために、広く深く自分の人生と新潟大学での学びについて考えていくにつれて、自分の進路への覚悟が決まりました。その経験があったからこそ、今は迷うことなく勉學に励むことができます。

同級生の皆さんは、社交性や協調性、思いやりを持っていて尊敬することばかりです。自分に足りない能力は、これから吸収していきたいと思っています。今は週に1日しか交流する日がない人が多いので、これから少しずつ親睦を深めることができたらいいと思います。早期臨床実習では、歯科診療について実際に見学することで、自分の将来像が具体的に想像できるようになりました。一年生から現場を体験することは、今後の学びを考えるきっかけになる良い機会だと思います。五十嵐キャンパスでは、他の学部の人との関わりも持つことが出来ます。私は教育学部の友達が出来たのですが、その子の学科での出来事をサークル終わりに寄ったごはん屋で聞くことが、週の楽しみの一つになっています。五十嵐キャンパスでの学びでは、自分とは違う生活を送っている人とも関われるので刺激の多い日々を送れています。

歯学部で過ごす4年間を充実したものにできるように、様々な体験を経験していきたいと思っています。口腔生命福祉学科は歯学のみならず社会福祉学も学ぶことができる学科です。どちらの勉

強も怠ることなく、社会人になるために自分を成長させていく4年間にしたいです。最後に、「歯学部ニュース」執筆の機会をいただきありがとうございました。

入学者の言葉

口腔生命福祉学科1年 神 林 美 羽

新潟大学に入學して、約3か月が経ちました。想像していたよりも毎日とても忙しく大変ですが、一人暮らしや学校にも慣れ、充実した日々を送っています。

4月、初めて大学に行き、慣れない環境で緊張と不安でいっぱいでした。友達はできるだろうか、授業についていけるだろうかなどと心配事がたくさんありました。しかし、授業が始まると1限は朝が早く、毎日課題も多くて大変でそんな不安はすぐに忘れていきました。そのおかげもあってか、生活にもすぐに慣れ、学校にも頑張っただけで毎日休まず通うことができました。そして5月には、歯学部運動会がありました。準備を手伝ったり、競技に参加したりして楽しい思い出ができました。運動会を通してたくさんの人とお話しし、仲良くなることができたように感じます。テストを乗り越え第1タームが終了し6月になると、少し余裕ができました。空いた時間を活用し、自動車学校に通ったりアルバイトをしたりしています。大学生だからこそ自由な時間がたくさんあるので、貴重な時間を無駄にせず、有効に使えるようにしていきたいと思っています。

入學して早々、早期臨床実習が始まりました。実際に病院へ行き、治療の見学をしたり患者役実習をしたりして、これから歯学部で専門的に学んでいくのだという実感がわきました。患者役実習では、6年生に口腔検診や指導をしていただき、患者さんの立場を体験すると同時に、日々の歯磨きや歯並びについて振り返ることができました。治療見学実習では、各専門診療科を回りそれぞれの診療内容を詳しく教えていただきました。実際の治療を間近で見学することができ、とても貴重な経験になりました。

歯学部に入塾して新しい仲間と出会った最初の頃は、緊張してうまく話せず仲良くなれるか不安でした。しかし、授業や実習を通じて話してみると、皆さんとても親切にやさしく接してくれて、とても安心したのを覚えています。歯学部の1年生は約60名ですが、その中でも口腔生命福祉学科は22名と少人数です。これから共に同じ目標をもって4年間学んでいく仲間を大切にしていきたいと感じます。そして、困ったときや辛いときは助け合って協力し合い、うれしいときや楽しいときは感情を共有し合いながらみんなで支え合い、4年間を乗り越えていきたいと思います。辛かった受験勉強を乗り越えて新潟大学に合格し、今歯学部で学ぶことができます。合格通知をもらった時の喜びは、今でも鮮明に思い出されます。これから4年間学んでいく中で、学ぶことのできるありがたさを忘れずに、何事にも積極的に挑戦していきたいです。今まで支えてくれた方々や、これからお世話になる方々への感謝を忘れずに、将来は立派な歯科衛生士、社会福祉士として社会に貢献できるような大人になることを目指し、4年間頑張ります。

入学者のことは

小児歯科学分野大学院1年 福地 憲太



新潟大学医歯学総合研究科 小児歯科学分野博士課程に入塾しました福地憲太と申します。この度歯学部ニュース令和6年度第1号(第145号)「入学者の言葉」執筆の機会をいただきました

たので、僭越ながら寄稿させていただきます。

私は新潟県の生まれで出身大学は昭和大学になります。昭和大学卒業後は、新潟大学医歯学総合病院歯科医師臨床研修プログラムAにて1年間研修を行いました。新潟大学は自宅から車で10分ほどの距離と比較的近く、研修医の時も毎日自宅から通勤しておりました。そのため、私にとって通勤しやすい環境で勉強を継続できることは大きな

メリットであると考え、大学院への進学を決意しました。

私が小児歯科に興味を持ち始めたのは大学5年生の頃です。当時、ポリクリで小児歯科を回っていた時になりますが、小児歯科のフロアに足を踏み入れるまでは私にとって小児歯科という場所は恐怖を感じる場所でした。というのも私自身、治療の際ネットに入れられており、泣いてうまく治療ができないまさに非協力児そのものでした。そのため、歯科医院に通院した経験があり、それが今でも恐怖として記憶に残っています。ポリクリでも同じようにネットに入れられて治療される子供を目にする機会が多くありました。当然ネットに入れられて治療されるという経験はあまり気分の良いものではなく、子供にとっては恐怖すら感じる体験です。小児歯科の先生は子供に怖さを感じないように積極的に声掛けを行うなどして気持ちを宥める努力をされていました。その様子を目にした時、私は先生方のさりげない配慮に感動したこと覚えています。その頃から、私も治療ができ、周囲の方々に対する配慮を欠かさずできる小児歯科の先生に憧れを抱き、私も小児歯科の世界に足を踏み入れたいと考えました。

大学院に進塾してから早くも3ヶ月が経ちました。今はまだ始まったばかりで慣れないことが多く、大変に感じるものがほとんどです。しかしそんな中、大学院の先輩や医局の先生方が優しく指導してくださるおかげで毎日頑張れています。

これから大学院生活を通して自らの努力で経験できることを増やしていきながら、4年間の大学院生活を送っていきたくて考えています。また、大学院の先輩方、医局の先生方のサポートを受けながら成長していける恵まれた環境に感謝の気持ちを忘れずに、日々成長の一途を着実に歩んでいきたいと考えています。

入学者のことば

歯周診断・再建学分野 1 年 瀧 川 ほのか



今年の 4 月より歯周診断・再建学分野に入局いたしました瀧川ほのかと申します。この度、入学者のことばとして執筆の機会をいただきましたので、大学院進学の間経緯等について拙い

文章ですが書いてみたいと思います。

大学院という進路を考える上で、各科の説明会で聞くお話や歯学部ニュースなどで先生方の“大学院は行ってよかった”と熱意の込められた言葉が必ずあることが印象的でした。その言葉に影響されながら、私もこれから何十年も歯科医師として生きていくにあたり自分のなかでしっかり学んだと少しでも自信を持てる分野がほしいと思い、漠然と大学院進学を考えはじめました。当分野を選んだのは、学生の頃の臨床実習で患者さんの治療計画に携わる中で全ての治療の基盤となる歯周組織の重要性を実感し、歯周治療についてもっと勉強したいと思ったことがきっかけでした。

卒後研修では新潟大学の B コースを選択し、前期半年間は協力型施設である埼玉県の開業医、後期半年間は新潟大学病院歯周病科にて研修させていただきました。開業医では大学病院との違いに圧倒されつつも、確かな経験値で次々に患者さんを診ていく先生方に憧れをいただき充実した研修となりました。大学病院での研修では一人の患者さんについて計画から治療、その効果までじっくり考えることができ大学病院ならではの良さを感じる研修となりました。両施設での研修を通して自分の未熟さを痛感しまだまだ自信がないことの方が多い私には、大学で正しい知識と技術を得ることが最善であると感じ改めて大学院で学びたいと思いました。

入学して 3 か月がたち、医局の先生方、同期に支えられながら院生の生活にも慣れてきたところです。臨床では、尊敬する先生方の診療をすぐ近くで学べることや、大学での診療と外勤先での診

療にて自分一人で悩んでいるときに先生方が的確なアドバイスとフォローをしてくださる環境が大変ありがたいと日々感じています。研究については、入学前は具体的には想像できずにいましたが、指導医の先生に導かれながら、テーマがあり実際に始めると研究の輪郭がみえてきて、これから先のうまくいく、いかない全てが楽しみで期待を膨らませています。まだ始まったばかりの大学院ですが、恵まれた環境に感謝し、将来の自分が“大学院は行ってよかった”と心底思える有意義な 4 年間にしたいと思います。

一般大学院生としての進学

口腔生命福祉学専攻博士前期課程 1 年

五十嵐 美 水

この度、口腔生命福祉学専攻博士前期課程に入学いたしました五十嵐美水です。3 月に口腔生命福祉学科を 17 期生で卒業し、引き続き新潟大学でお世話になっております。

現在は、大学院で研究をしながら、夕方には、地域の個人歯科医院でアルバイトをしています。口腔生命福祉学専攻では、新潟大学医歯学総合病院や他の施設で常勤として働きながら進学している先輩方や同期もいますが、そんな中で私は一般大学院生として進学しました。

まずは消極的な理由になってしまいましたが、先輩方のように仕事と研究を両立することができるのかと不安だったためです。アルバイトをしている歯科医院では、新卒にも関わらず非常勤で働くことを快く受け入れてくださり、少しずつ歯科衛生士としての技術を身につけていく様子を温かく見守ってくださっています。また、学部時代の福祉実習でお世話になった新潟市児童相談所で、一時保護所の補助員として働く準備もしています。一般大学院生として進学したことで、口腔生命福祉学科の卒業生が迫られる「歯科と福祉どちらで就職するか」という問題に対して、両方経験することができる第三の選択肢を見つけられたかなと思っています。大学院では、教授の先生方が新潟市の高齢者を対象に長年蓄積してきたデータを使

用させていただき、歯周病関連の研究をしています。研究、授業、アルバイトをこなしても自分の処理能力を超えることがなく、精神的にも身体的にも安定して暮らすことができています。職場、大学、進学を勧めてくれた母親、それぞれに感謝しながら日々を過ごしていきたいです。

2つ目の理由は、良い機会なので研究にしっかり打ち込もうと考えたからです。歯科衛生士として働くのであれば、専門学校・短期大学で3年でのよいところを、大学に進学し4年かけてじっくり学んだ上で、さらに大学院に進学して研究をするのであれば、2年間研究に没頭できる環境が良いのではないかと考えました。幸い、指導担当教員の先生にお力添えをいただきながら順調に研究をすすめることができています。今後、学会発表等にも積極的に参加したいと思っています。卒業後2ヶ月を過ぎ、学部の同期と会ったりご飯に行ったりする中で、仕事の話をたくさん聞かせてもらい、歯科、福祉分野で頑張っている同期たちの話を聞いて尊敬や羨望の気持ちを強く感じます。その分、自分の選択を間違いにしてしまわないためにも、大学院という環境を十分に活用して血肉に変えていきたいとも感じます。

周りの大学院生や同年代と比較して、特殊で恵まれた環境であることに感謝して、仕事でも大学院での活動でも挑戦していきたいと思っていますので、これからよろしくお願いします。

入学者のことは

口腔生命福祉学専攻博士後期課程1年 鈴木志歩

今年度より、口腔生命福祉学専攻博士後期課程に入学いたしました鈴木志歩と申します。私は、口腔生命福祉学科を14期生として卒業後、社会福祉職として市役所に就職しました。また医療福祉分野についてより深く学びたいと考え、就職と同時に口腔生命福祉学専攻の博士前期課程に入学しました。当初は仕事をしながら大学院へ通うことが出来るのか不安を感じていましたが、親身になって教えてくださる口腔生命福祉学科の先生方

や、家族、友人、職場のサポートによって前期課程を修了し、この春、後期課程に進学することが出来ました。

この度、歯学部ニュースに「入学者のことは」を寄せるにあたり、前期課程での経験や近況、そして後期課程での抱負を述べたいと思います。

前期課程では、研究に関することすべてが初めての体験でした。研究計画書の作成、データの収集・分析と、わからないことの連続でしたが、その都度先生からサポートをいただきながら研究に取り組みました。また学業と仕事の両方に取り組んでみて、大変ながらも良かったと感じることが多数ありました。仕事では、生活保護のケースワーカーとして対象者の支援にあたっています。ケースワーカーは1人あたり約80世帯を担当しており、支援を要する方の相談対応、定期的な家庭訪問、生活保護費の計算、各世帯の状況に応じた支援策の検討、援助計画の立案、関係機関との連携などを行っています。日々の業務に取り組む際、会話をする時の対応力や、対象者が希望する支援・必要な支援についての理解などに関して、勉強不足であると感じることが沢山あります。現場で試行錯誤を重ねる中で、大学院での学びを活かし、最適な支援を行うには何が必要であるかを俯瞰して検討出来ること、相談支援の技術について改めて学びを得られることが自身の成長に繋がっていくと感じます。また仕事で実践して感じたことを学業の場で研究に組み込んでいくことで、普段気に留めず受け流してしまう福祉分野の現状を明確にし、より深く学習することが出来ると感じました。

後期課程では、社会福祉士と歯科衛生士のダブルライセンスを活かして保健・医療・福祉分野をより深く包括的に学びたいと思っています。研究への取り組みはまだ始まったばかりで手探り状態ですが、先生方からご指導をいただきながら今自分に出来ることに精一杯取り組み、有意義な大学院生生活を送れるよう頑張っていきたいと思っています。そして福祉現場での学び、研究での学びを支援対象者へ還元していくことが出来るように、努力を続けていきたいと思っています。これからどうぞよろしくお願い致します。